

埼玉県立吹上秋桜高等学校
第 3・4 年次履修生徒
授業者 山原健太郎

1 科目 現代文 A 「現代文 A」 東京書籍

2 単元名・教材名

単元名：「コミュニケーション」についての考えや意見を交流し、自分の考えを深める。

教材名：内田樹『身銭』を切るコミュニケーション

3 生徒の実態と単元設定の意図

(1) 生徒観

本クラスの生徒は落ち着いており、授業でも学習意欲の高い生徒が多い。一方で、本科目を得意とする生徒と苦手とする生徒との差が大きく、「全員の前で発言することが苦手」、「文章を読んでも自分にはない考え方だと理解が難しい」と思っている生徒も見られる。そのような生徒たちも、哲学対話などの協調学習を行った際は自分なりに考え参加しようとする態度が見られ、授業後に感想や意見を聞いたところ、考えていたことを、しっかりと伝えることができていた。

今年度は、俵万智「さくらさくらさくら」及び川上弘美「真面目な二人」等を学習済みであり、本文に描かれている情景や人物の言動などから筆者の主張を読み解くことを学んだ。そこから本教材では、筆者の主張を受けて自分はどうか考えるか、といった部分まで学びを発展させたいと考えている。

(2) 教材観

本教材『身銭』を切るコミュニケーションは、筆者の考えるコミュニケーション論が豊富な具体例と共に展開されている評論である。現行の学習指導要領における現代文 A の目標である、「国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる」という面において、他者との関係性に直結するコミュニケーションについて考えを深めることができるこの教材は大変意義のあるものだと考える。さらに、本クラスは3年次及び4年次の生徒が受講しており、ちょうど人間関係等の悩みや不安感を抱えることも多い年代だと思われる。だからこそ、本文で展開される筆者のコミュニケーション論について、生徒たち自身の身の回りのことと関連付けて考えやすいのではないかと考える。その結果、生徒一人一人が自分のコミュニケーションについて考え、他者との関係性等、社会生活の向上を図る良い機会になりうるのではないだろうか。

(3) 本単元で工夫する手立て

本校の生徒は他者とのコミュニケーションを苦手とする生徒が多いが、それはこのクラスの生徒も例外ではない。そこで指導に当たっては、筆者のコミュニケーション論を受けて自分はどうか考えるかといった部分まで学びを発展させ、生徒の人間関係形成能力等の育成を図ることにより、社会生活の向上を目指す。

まずは一斉授業で、文章に表れた豊富な具体例をもとに筆者のコミュニケーション論をおさえる。その後は生徒達の主体的な学びを引き出すために、哲学対話を取り入れ、生徒たち自身の身の回りのことと関連付けて「コミュニケーション」について考えを深めるといった活動を設定する。最後には個人活動の時間を設け、生徒自身の考えるコミュニケーション論を記述できるようにする。

4 単元の目標と取り上げる言語活動

単元の目標

- (1) 自分の考えるコミュニケーション論に関して、積極的に感想や意見を交流し考えを深めようとする。
(関心・意欲・態度)
- (2) 文章に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取り、人間、社会、自然などについて考察することができる。
(読む能力) (内容(1)のア)
- (3) 語句の用いられ方について理解を深めることができる。
(知識・理解) (内容(1)のイ)

取り上げる言語活動

文章を読んで、筆者の主張を身の回りのことに関連付け、それについて批評し、自分の考えを書くこと。

5 単元の評価規準と学習活動における具体的評価規準

	ア 関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 知識・理解
単元の評価規準	・自分の考えるコミュニケーション論に関して、積極的に感想や意見を交流し考えを深めようとしている。	・文章に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取り、人間、社会、自然などについて考察している。(ア)	・語句の用いられ方について理解を深めることができる。(イ)
具体的評価規準	① 進んで他の人の考えを聞き、自分の考えを深めようとしている。 ② 自分自身のコミュニケーション論を、具体的な根拠と共に説明しようとしている。	① 文章に示された具体と抽象を捉えながら、作者の主張を考えている。 ② 登場人物の行動を比較し、コミュニケーションが成立する要因を考えている。 ③ 筆者や他の人の考えを受け、コミュニケーション論について自分自身の考えを深めている。	① 本文中の漢字を理解している。 ② 慣用的な表現を中心とした語句の意味を理解している。

6 単元の指導と評価の計画 (全5時間)

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準 (●)・評価方法 (☆)
1	① 単元のねらいと単元の流れを把握する。 ② コミュニケーションという言葉から思うことを発表する。 ③ 「身銭を切るコミュニケーション」の範読を聞く。 ④ 語句の意味を確認する。	・単元に関心を持たせる。 ・範読により登場する漢字の読みを理解させるとともに、全体の概要を把握させる。	●慣用的な表現を中心とした語句の意味を理解している。(オの②) ☆授業後にワークシートを回収し

	<p>⑤ 意味段落を分類する。</p> <p>⑥ 第1意味段落を読解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1段落での筆者の主張を読み取る。 <p>⑦ 振り返りシートを記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体と抽象を確認させる。 ・第1段落での筆者の主張を、本文に登場する具体例から考え記述させる。 	<p>記述を分析する。</p> <p>●文章に示された具体と抽象を捉えながら、作者の主張を考えている。(エの①)</p> <p>☆授業後にワークシートを回収し記述を確認する。</p>
2	<p>① 流れの確認と前時の復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「予想の地平」とはなにか <p>② 第2意味段落までを音読する。</p> <p>③ 第2意味段落を読解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話が通じない理由 ・話が通じるようにするためにはどうすればよいか <p>④ 振り返りシートを記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者が何を言いたいのか考えながら、全員で順番に音読させる。 ・本文中にある、「若い店員」と「卒業生」の行動と結果を比較し、異なる点やその結果になる原因、どうすれば話が通じるか等についての筆者の考えをワークシートに整理記述させる。 	<p>●登場人物の行動を比較し、コミュニケーションが成立する要因を考えている。(エの②)</p> <p>☆授業後にワークシートを回収し記述を確認する。</p>
3	<p>① 流れの確認と前回の復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話が通じるようにするためにはどうすればよいか <p>② 筆者の主張を考えながら全文を音読する。</p> <p>③ 第3意味段落を読解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まず自分が『身銭』を切って、分岐点まで戻るための一步を踏み出さなければならない。」とはどう意味か考える。 <p>④ 本文の要旨をまとめる。</p> <p>⑤ 振り返りシートを記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張が最も強く表れている形式段落を探させる。 ・「」が使用される場合のパターンや、言い換えられている表現を考えさせる。 ・「要旨」とは何かを確認させる。 ・なかなか書けない生徒に対しては、抽象的な部分を探して線を引かせ、その部分を短くしてみることをさせるなどスモールステップを意識した机間指導を行う。 	<p>●本文中の漢字を理解している。(オの①)</p> <p>☆学習の中で漢字を確実に読めているかどうか、行動を観察する。</p> <p>●文章に示された具体と抽象を捉えながら、作者の主張を考えている。(エの①)</p> <p>☆授業後ワークシートを回収し記述を分析する。</p>
4	<p>① 流れの確認と前回の復習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文の要旨 		

<p>本時</p>	<p>② 哲学対話を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションについて考える <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【哲学対話実施の留意点】</p> <p>哲学対話において、教員のみが完全なファシリテーターと化し、「評価する側」に、生徒たちは完全な「評価される側」になってしまうことは好ましくないと考える。</p> <p>対話中の評価に関しては、ルーブリックを年度当初に配りそれに基づく評価、自己評価の2点から慎重に行いたい。</p> <p>哲学対話においては、個々人の評価以上に学び続ける集団としての評価が重要であると考え。そのため対話の最後には自己評価と集団の評価を行う。これを繰り返し行うことで、よりよい学びの集団が形成されることをねらいとする。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本文に表されているのはあくまで筆者の主張であり、それを受けて自分たちがどう考えるかをみたいと伝える。 ・本文で疑問に思ったこと、私たちが普段しているコミュニケーションについて思うこと、体験談や聞いた話など話すことはなんでもよい。 ・多く発言しているか等ではなく、他の意見を傾聴し、そこから議論していることに関して考えを深めることができているかを見る。 ・参加者はメモを適宜取りながら対話を行う。 ・対話の最後数分で自己評価と集団としての評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●進んで他の人の考えを聞き、自分の考えを深めようとしている。(アの①) ●筆者や他の人の考えを受け、コミュニケーション論について自分自身の考えを深めている。(エの③) <p>☆教員も対話に参加し、対話の様子を観察及び分析する。</p> <p>☆発言を受けての返答や態度等を分析する。</p>
<p>5</p>	<p>① 流れの確認をする。</p> <p>② テーマを選び、記述を行う。</p> <p>i 単元での学習を踏まえ、「コミュニケーション」についてどう考えるか、自由に論じる。</p> <p>ii 本文の内容を踏まえて自分なりに問いを立て、自分の考えを自由に論じる。</p> <p>iii 日常を生きていて、コミュニケーションに関して疑問に思うことを問いにし、それについて自分の考えを自由に論じる。</p> <p>⑤ 振り返りシートを記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・左の3つから1つ選び論述させる。 ・「書き方のヒント」(含めるとよい内容等)を板書し、論述が苦手な生徒には丁寧に伝える。 ・筆者の意見を知った上で、生徒自身がどう考えるのかを大切にしたい。そのため、筆者の意見に対し肯定的な立場であってもそうでない立場であっても構わないことを伝える。 ・早く終わった生徒には発展課題を用意する。 ・単元の終わりなので、単元を振り返っての自己評価をつけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分自身の考えるコミュニケーション論を、具体的な根拠を踏まえて説明しようとしている。(アの②) ●筆者や他の人の考えを受け、コミュニケーション論について自分自身の考えを深めている。(エの③) <p>☆授業後ワークシートを回収し記述を分析する。</p>

7. 本時の学習指導 (4/5 時間目)

(1) 目標

- ・進んで他の人の考えを聞き、自分の考えを深めようとしている。(関心・意欲・態度)

- ・私たちのコミュニケーションに関して、自分の考えをもつことができる。(読むこと)
- ・他者の考えを受け、コミュニケーション論について、自分の考えを深めることができる。(読むこと)

(2)本時の展開

段階 (時間)	学習活動	指導上の留意点	指導（・）と評価の創意工夫 (○)
導入 (5)	1 本時の目標と学習の進め方を知る。	・本時の活動でメインとなることを伝え、次回の活動にどうかすかを説明する。	・学習の進め方は、わかりやすく板書しておく。
考えを発信、共有して、自分自身の考えるコミュニケーション論を深めよう			
	2 前回の復習 (本文の要旨の確認)	・パワーポイントを使用し、内容を視覚的にも確認できるようにする。	・生徒の提出物で良かったものは取り上げるなど、やる気を引き出すようにする。
哲学 対話 (39)	3 対話 【哲学対話について】 哲学対話では、生徒も教員も一緒に輪になり自由に思ったこと、気付いたことなどを発言する。国語学習においては、筆者の考えだけを学ぶのではなくそれを受け止め自分はどうか考えるのかが大切であり、その各個人の考えを広げるには対話が必須になると考える。 教員、生徒一人一人の経験世界から生み出される考えを自然と共有し、教える・教わるの関係を超越して全員の「学びたい」「知りたい」を引き出すきっかけとしたい。	・教員も、対話するメンバーの一人として参加する。 ・話が途中で終わってしまっても、時間通りに授業は終わる。 ・本文で疑問に思ったこと、私たちが普段しているコミュニケーションについて思うこと、体験談や聞いた話など話すことはなんでもよいと伝える。 ・生徒たちにはメモを適宜取りながら対話をさせる。	・適当なタイミングで全員に話を振るようにする。 例「○○について、私は××と思うけどみんなはどう考えてるか、時計回りで聞いてみて良い？」 ・対話のスピードが早くなり、遅れてしまう生徒が出そうな場合は教員がスピードの調節をする。 例「今言ってくれた～に関して、例えばどんなことがありますか？」 「これは～という意見、という解釈でありますか？」 ○多く発言しているか等ではなく、他の意見を傾聴して自分自身と対話し、議論していることに関して考えを深めることができているかを見とる。 ○自分以外の参加者の発言に込められた真意を読み取ろうとしているかを見とる。 【評価規準】 「関心・意欲・態度」の① 「読む能力」の②

			【評価方法】 行動の分析、記述の分析 生徒による自己評価
次回の 説明 (1)	4 次回の学習の見通しをも つ。	・本時に考えたことを、次回文 章にまとめることを再度伝え る。	

対話を深める合い言葉

もう一度お願いします。

質問です☆

詳しく教えて！

ここがわかりません

どういうこと？
例えば？

みんなに聞いて
みたいです。

本当にそうかなあ

どうしてそう思う？

質問のキーワード

- A. なぜですか？ なぜ~と思いますか？
- B. どういう意味？~というのどういう意味？
- C. 例えば？ 具体例があれば教えて。
- D. ~とは何ですか？
- E. OOとXXにはどんな違いがありますか？
- F. もし~だったらどうですか？